【中学部　国語①　実践の概要】

〇中学部３年　国語　（単一障がい学級）
〇本時の題目：「電話受け取りお助けシートを完成させ、状況に応じた応対を考えよう」
〇本時の目標：
・「電話受け取りお助けシート」を基にやりとりをする中で、応答できるかできないかの判断をすることができる。　（思・判・表）
・友だちと考えを出し合い、よりよいシートに改善しようとする。（学・人）

授業者のねらいとしては「電話の応対をする際、どうすれば困らずに応対することができるのかを考え、自分用のお助けシートを作成し、それを基に電話の応対ができるようになってほしい」というものであった。授業では、様々な状況を想定し、実際に電話の応対を行うロールプレイを行った。その様子を、ペアの生徒と振り返りながら、自分用のお助けシートを作成するというものであった。また、他の生徒のロールプレイを見ながら、各自で参考になる部分を書き加えるといった様子が見られる授業であった。

【良かった点・工夫されていた点】

〇導入時の今までの学びを振り返る中で、生徒から「メモを取る」、「復唱する」、「書く時に時間をかけすぎない」といった言葉が出てきた。その言葉を意識して、実践する流れになっていた。
〇導入時に、すぐに本時のめあてを提示するのではなく、今までの活動を生徒たちの言葉で振り返り、その上で、今日の活動を提示したことで、生徒自身が必要感を感じることができるめあてとなっていた。
〇前時に教師がわざと間違える電話の応対の動画を見ていたこともあり、「こうしてはいけない、だからこうしよう」という意識でロールプレイを行っていた。
〇他の人のロールプレイの様子を見て、参考になった点等をもとに、自分用のお助けシートに書き加えている様子が見られた。
〇ロールプレイを行った後に、ペアで話し合う時間を設けた。良かった点をあげるだけではなく、「なぜそれが良かったのかを伝えよう」としたことで、生徒が理由を考えて、良かった点等を伝える姿が見られた。
〇生徒に問いかける場面を多く設けたことで、授業の中で、生徒が考えを言語化する場面が多く見られた。
〇振り返りの中で、「今日勉強したことを、次の電話の対応の時に生かしたい」と生徒が発言する場面があり、子どもたちが主体的に取り組み、対話を通して、自分に合ったお助けシートを作ろうとする姿が見られた。
〇お助けシートというフォーマットを作ることが目的ではなく、電話の応対を行うことができるという目的のために、自分用のお助けシートを作るということが明確であったため、生徒もそれを意識して取り組んでいた。

【課題】

〇生徒の発言を大事にして、一つ一つを取り上げていたため、授業時間内に終えることができなかった。

【助言】

〇生徒の発言をその都度取り上げると、時間がかかり過ぎてしまう。生徒の発言を大事にしながらも、ワークシートに記入するといった方法もとりながら、時間を効率的に使い、授業時間内に終了するようにすること。

【総括】

「省略してメモした方がいいと思う」、「聞いている人がわかるように返事をした方がいい」、「最初はもしもしと言った方が聞きやすい」、「丁寧に書くよりも素早く書く方が大事」といった意見が生徒から出て、それを実践しようとする、主体的で対話的な姿が見られる授業であった。また学んだことを言語化し、自分用のお助けシートを作成し、それを参考に実践しようとする深い学びにつながる授業となっていた。